

Y10b 星空案内人資格認定制度運営機構の最近の活動について

柴田晋平、渡邊瑛里 (山形大学)、甲田昌樹 (星空案内人資格認定制度運営機構)、安藤享平 (郡山ふれあい科学館)、富田晃彦 (和歌山大学)、水谷雅寛 (三重県環境学習情報センター) ほか機構メンバー

星空案内人資格認定制度運営機構は、星空や宇宙への関心を高め、親しんでもらえる日常環境を作るべく星空案内人 (星のソムリエ) の養成を中心とした様々な活動をしています。中期的な目標のひとつに、星空案内のボランティア活動するならまずこの資格から、といわれるような信頼性のある教程をつくることを掲げています。現在の実施団体数は25団体、案内人・準案内人総認定数は3313件 (2016年12月5日現在) です。

昨年は次の3つの認定基準の改訂を行いました: 「望遠鏡を使ってみよう」という科目の認定チェックシート二点 (赤道儀おおび経緯台)、「さあ、はじめよう」という科目の認定レポートです。ここでは、講師、受講生のモニターによるポート問題の改善意見が大変参考になりました。

各科目の講師が苦勞する講義スライドについては、「星空案内人資格認定制度スライド作成プロジェクト」を立ち上げて全国の講師がスライドなど教材を交換する仕組みを作りました。著作権などの問題を避けるため講師による研究会の形をとっています。このため、教材を入手したいときはプロジェクトメンバーに入る必要があります。

制度の活性化のためには、全国統一の認定基準を確保するとともに生きた授業を支える講師の自由度が重要で、両者のバランスが必要です。この点に関する指針を定めました。3月6,7日に開催する星空案内人資格認定制度全国シンポジウムの速報もします。(参照; <https://sites.google.com/site/hoshizoraannaishikakunintei/>)